

© ACG プレスリリース - 展覧会開催のご案内 -



## 秋山 陽「未だ生まれない…」

Yo Akiyama: The Unborn



アートコートギャラリーでは、この度、秋山陽による個展「未だ生まれない…」を開催いたします。本展は、約20年ぶりに新たな名称を冠した大型作品《Ame-tsuchi》の3点を中心に、白磁と鉄粉を素材とする実験的な新作《Crossing》および代表的シリーズ《Metavoid》の関連作複数点で構成されます。

秋山は40年余りにわたり、亀裂を特徴とする独自の陶表現によって、造形—空間—知覚の間に生じる関係への存在論的アプローチを追求しています。「かたちではなく、状態、現象を取り出す」という、陶芸の本質を鋭く揺さぶる試みから生まれた初期シリーズ《準平原》(1980〜)は、円筒や円錐などの土の立体の表面にバーナーを用いてひび割れを生じさせ、それを切り開いて展開したものを黒陶へと仕上げ、平面状のオブジェクトとして空間に配置したものです。土の「表皮」、内部と外部という空間概念を可能にする「境界面」を主題とする本作を契機として、1990年代以降、《地質時代》《Oscillation》《Metavoid》など様々な展開を通して、原初的なうつわ構造を土台とする内／外、物質／空間の相互関係、あるいは生成と崩壊、人為と自然といった相反する要素を包摂する多中心的な存在のあり方が探求されました。

土と陶を素材とする秋山の表現者としての実践は、自身の身体感覚— 足で踏みしめ、手で触れる大地の感触を抛り所とする姿勢と、自らの限りある身体では捉えがたい大きな存在、無限にも通じる「何か」を希求する心の絶え間ない往還に支えられたものであり、そこには常に、「イメージとして静止・完結しているものではなく、時間的・空間的広がりや喚起させるもの」すなわち「完璧な未完」を志向する意思が働いていました。

本展の中心となる《Ame-tsuchi》は、秋山が存在と創造について積み重ねた思索をさらに深化させ、自身の造形的探求に新たな可能性を開くものとして取り組んだ作品群です。従来の陶土に磁土を加える、焼成後の本体に研磨をかけるなどの新たな試みにより、独特の肌理と光沢をまとい、秋山作品特有の硬さと脆さの対比を一層際立たせるしなやかな存在感。二つの軸が合わさり、あるいは一つの軸の中にスリットが走る形態は、融合と分化の狭間にある生命体、あるいはそれを取り巻く円環的な時間を想起させます。天からの恵みを受けて地中の種が芽吹き、長い時間をかけて一本の木として成長し、やがては土に還り、さらに別の形へと変化してゆく…。生と死が緩やかに結びつき織りなす生命の循環的な営みを、自身もその一部である作家が皮膚感覚にもとづく土との関わりを通してなぞることは、有限の存在である自らと知覚を超越した存在とが、どこかで繋がっていることを確かめようとする行為でもあるかのようです。また、白磁の支持体に線による様々なコンポジションが浮かび上がる《Crossing》は、2013年に発表された、鉄粉の酸化作用を利用して蜘蛛の巣を定着させたモノタイプ《交信》の延長線上に生み出された作品です。蜘蛛が作り上げる精緻な造形美という微視的な世界との交信のうちにも、作家は自身の感性が不可知なものと交差する瞬間を追い求めているのかもしれない。

素材と自身の間に醸成される「現象」としての土の振る舞いを手がかりとして、森羅万象に息づく無限の広がりを見つめる秋山の現在進行形の表現をぜひご覧ください。

[出展予定作品] 《Ame-tsuchi 1》(部分) 陶土、磁土、熔化化粧土、鉄粉 | 109.5 x 88 x 35 cm | 2024年 | 撮影: 福永一夫

### 【展覧会概要】

開催例：秋山 陽「未だ生まれない…」 Yo Akiyama: The Unborn  
 会期：2024年 11月9日 [土] - 12月14日 [土] \*日月祝 休廊  
 会場：アートコートギャラリー  
 開廊時間：11:00-18:00 [土曜日-17:00]

◆レセプション：11月9日 [土] 15:30-17:00

主催：アートコートギャラリー(株式会社八木アートマネジメント)  
 協賛：三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社

作家関連情報 | アートフェア出展のご案内

Art Collaboration Kyoto | フェア公式サイト：https://a-c-k.jp  
 2024年 11月1日 [金] - 3日 [日] / 内覧会10月31日 [木] \*招待のみ  
 会場：国立京都国際会館、京都  
 アートコートギャラリーブース：KM02 (Kyoto Meetingsセクション)  
 出展作家：秋山陽、児玉靖枝  
 フェアのゲストキュレーターによるパブリックプログラムにも秋山による大型作品が出品されます。

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当: 清澤・灰田] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com

© ACG プレスリリース - 展覧会開催のご案内 -

# 秋山 陽「未だ生まれぬ…」

*Yo Akiyama: The Unborn*



YAGI ART MANAGEMENT, INC.  
ARTCOURT Gallery

## ◆ 主な出展予定作品



《Ame-tsuchi 1》  
陶土、磁土、溶化化粧土、鉄粉  
109.5 x 88 x 35 cm  
2024年



《Ame-tsuchi 2》  
陶土、磁土、溶化化粧土、鉄粉  
96 x 90.5 x 52 cm  
2024年



《無題 MV-244》  
陶土、磁土、溶化化粧土、鉄粉  
37.5 x 42 x 47.5 cm  
2024年



《無題 MV-245》  
陶土、磁土、溶化化粧土、鉄粉  
20.5 x 49.5 x 19.5 cm  
2024年



《Crossing 3》  
磁土、鉄粉  
12 x 19.5 x 23 cm  
2024年

撮影: 福永一夫

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [ 担当: 清澤・灰田 ] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com

## ◆ 秋山 陽 Yo Akiyama



1953 山口県下関市生まれ  
1978 京都市立芸術大学陶磁器専攻科修了

## |主な個展|

2022 「秋山陽-Far Calls and Textures-」アートコートギャラリー、大阪 [’13, ’09]  
2021 Galerie Pierre Marie Giraud、ブリュッセル、ベルギー [’14, ’10]  
2019 「Echoes: In the Beginning Was Clay」QM Gallery Katara、カタール、ドーハ  
2018 「秋山陽-はじめに土ありき-」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都  
2016 「アルケーの海へ」菊池寛実記念 智美術館、東京  
2011 Joan B. Mirviss Gallery、ニューヨーク、USA [’07]  
2008 村松画廊、東京 [’98]  
2005 壺中居、東京  
Frank Steyaert Gallery、アントワープ、ベルギー  
2004 「土の深層」世界のタイル博物館、常滑、愛知  
1999 コンテンポラリーアートNIKI、東京  
1996 Gallery Koyanagi、東京 [’93, ’89, ’87]  
ギャラリーなかむら、京都 [’87]  
1991 渋谷西武工芸画廊、東京 [’88]  
1986 「クレイ・クレパス」INAXギャラリー 2、東京  
1985 ギャラリーマロニエ、京都 [’83, ’82]  
1980 ギャラリー16、京都  
1977 ギャラリー射手座、京都 [’76]

## |近年の主なグループ展|

2023 「やきものの現在 土と塊の立ち上がる姿」多治見市文化工房 ギャラリーヴォイス、岐阜  
2021 「土イジリ」茨城県陶芸美術館、茨城  
2020 「HANDS & EARTH: Perspectives on Japanese Contemporary Ceramics」  
カトナ美術館、ニューヨーク、USA  
「2020年度コレクション展I コレクションにみる 広がる現代アート 眼で聴き、耳で見る」  
BBプラザ美術館、兵庫  
2018 「2018 Taiwan Ceramics Biennale」新北市立鶯歌陶磁博物館、台湾  
2016 「蜘蛛の糸」豊田市美術館、愛知  
「Rencontre-いま、ここで、出会う《交差する現代陶芸コレクション》」  
兵庫陶芸美術館、兵庫  
「寺田コレクションの陶」東京オペラシティアートギャラリー、東京  
2015 「ファエンツァ-国際陶芸展受賞作家展」関口美術館、東京  
「Unfolding Worlds」ヒューストン美術館、USA  
2014 「Into the Fold: Contemporary Japanese Ceramics  
from the Horvitz Collection」ハーン美術館、USA  
「Tradition on Fine Contemporary Japanese Ceramics  
from the Paul & Kathy Bissinger Collection」アジア美術館、USA  
2012 「ソリエリュミエール-物質・移動・時間」金沢21世紀美術館、石川

## |主な受賞|

2016 平成27年度日本陶磁協会賞 金賞  
2014 京都新聞大賞 文化芸術賞  
2011 第52回毎日芸術賞  
2010 第17回MOA岡田茂吉賞 工芸部門大賞  
2008 第21回京都美術文化賞  
2007 第25回京都府文化賞 功労賞  
2001 第19回現代日本彫刻展 宇部興産賞  
1992 京都市芸術新人賞  
1989 第46回ファエンツァ国際陶芸展 買上賞  
1988 八木一夫現代陶芸展 優秀賞 [’86]

## |主な作品収蔵|

愛知県美術館/愛知県陶磁美術館/茨城県陶芸美術館/  
大阪市立東洋陶磁美術館/宇部市野外彫刻美術館/  
金沢21世紀美術館/岐阜県現代陶芸美術館/京都市立  
近代美術館/京都市美術館/京都中央信用金庫/京都府/  
国際交流基金/国立工芸館/国立国際美術館/郡山市  
文学資料館/サントリー美術館/滋賀県立美術館/  
滋賀県立陶芸の森/島根県立美術館/高松市美術館/  
東京オペラシティアートギャラリー/常滑市教育委員会/  
BBプラザ美術館/山口県立萩美術館・浦上記念館/  
和歌山県立近代美術館  
エバーソン美術館/ファエンツァ国際陶磁美術館/  
ヒューストン美術館/ヴィクトリア・アンド・アルバート  
美術館/プラハ装飾美術館/カナディアン・クレイ・  
アンド・グラスギャラリー/国際陶芸スタジオ・ケチケ  
メート/セラミオン・フレッチェン/ミント美術館/  
ミネアポリス美術館/ボストン美術館/スミス・カレッジ  
美術館/アマローシ陶彫美術館/ホノルル現代美術館/  
セーブル美術館/ポートランド美術館/南オースト  
ラリア美術館



「秋山陽-Far Calls and Textures-」アートコートギャラリー、大阪 (2022年)



[参考作品]

《Metavoid 37》陶 | 123 x 66 x 50 cm | 2022年

撮影: 福永一夫

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当: 清澤・灰田] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com